社会の状況

・不確実な時代
・急速な AI の進化
・多様な進路選択

教育目標

自分で考え
友達といっしょに活動し
ふり返りのできる子

児童の実態

〇活動に前向きに取り組める
〇峡田小のよさを大事にしている
△気持ちの言語化
△学習課題を見つけ、解決する力

研究主題

なりたい自分をえがける児童の育成

～自ら学びを表現し合う活動を通して～

本校におけるキャリア教育で育みたい力（４つの基礎的汎用的能力の捉え）

自分で考える力 （自己理解・ 自己管理能力）	友達と関わり学び合う力 （人間関係形成・ 社会形成能力）	活動をふり返る力 （めあてなど） （課題対応能力）	将来を見通す力 （キャリア・プランニング能力）

キャリア教育で育む具体的な姿（めざす児童像）

自・・・取り組みたいことを見つける力　課題に対して自分で考える力　自分のよさを見つける力
友・・・受容的・肯定的に聞く力　相手を考えた伝え方ができる力　友達のよさを見つける力
　　話合いを通じて自分の考えを深める力

研究の仮説

児童が学校の活動を通して、自分の思いや考えをいろいろな友達と伝え合いをすれば、自分自身のことがわかり、自分のよさを見つけることができるであろう。また、友達のよさも見つけることもでき、友達に憧れを抱くことで、自分を成長させようとし、なりたい自分をえがくことができるであろう。

研究の視点（主題にせまるための取組）

・肯定的、受容的な聞き方（児童、教師）　→話合い１０のやくそくの重点化
　→児童の考えを価値付け、つなぐ教師の言葉がけ
・主体的に課題解決ができる授業展開の工夫（ワークシート、発表方法、交流の仕方）

峡田小キャリア教育の充実を支える日常の取組　環境設定

・学期ごとの「学びの道しるべ・学級のあしあと」の活用による進歩や成長の可視化
・峡田小キャリア・パスポートの作成とキャリア・パスポートの計画的な活用（学級活動（３））
・学んだことをふり返り、生活に生かせる「道徳の木」の掲示
・キャリア・カウンセリングの実践　（運動会、音楽会ノート）
・互いを認め合う交流活動（行事後の異学年交流感想カード）
・子供たちの自主性・主体性を生かしたキャリア教育の要となる「特別活動」の充実

研究の概要

１，主題設定の理由

本校では、キャリア教育の研究を始めてから７年目になる。それは、「変化が激しく、予測困難な時代」と言われているからこそ、自分らしく、よりよく生きていくための力をつけていく必要がある。その力は、「やってみたいことを自分で考えチャレンジする」「だれとでも活動できる力」「なりたい自分をえがける力」と考える。

キャリア教育の要である特別活動は、峡田小学校の特色ある教育活動の一つである。学級活動や児童会活動、クラブ活動など、児童が主体的に活動し、振り返り次の活動に生かすことが根付いてきている。また、そのような児童の活動に対して、教師側の言葉がけもキャリアカウンセリングの視点を用いて「共感」「受容」時に「助言」することを心がけている。

また、キャリア教育は教育活動全体を通じて行われるものである。昨年度は、各教科の授業の中でも、友達に自分の考えをしっかり聞いてもらい、受けとめてもらえれば、自分に自信をもち、自分のよさに気付くであろうと考えた。実際、しっかり聞いてもらえることで、安心感が増し、人前に出て発表をする児童が多くなった。聞く、という意識も高まった。しかし、聞いてもらえるから、という安心感に、相手のことを考えず、まとまりのない話をしたり、伝えようという意識が低かったりする児童もいる。

そこで、今年度は、さらに、相手のことを考え、自分の考えを表現し合えれば、自分のよさや友達のよさに気付き、自分の考えに自信をもち、さらに自分を成長させ、なりたい自分をえがけるだろうと考え、本研究主題を設定した。

２，主題に迫るための取組

①肯定的・授業的な話の聞き方　児童と教師

②主体的な学びのできる授業改善

（１）一斉授業ばかりではなく、子供たち自身が学びの問いを見つけ、自ら解決し何を学んだか、自分の言葉で表現できる授業を考えていく。そのために

・めあてを自分でたてさせる。（何を学ぶのか主体的に考えさせる。）

・課題解決のための方法を選択させる。（一つの解決方法ではないような授業展開）

・対話を取り入れた授業展開

・何を学んだのか自分で表現する振り返りの時間の確保

（２）研究授業においては、指導案に発問（せりふ）を書く。

（３）学級活動（１）（２）（３）の授業を見合う。

３，キャリア教育の充実を支える取り組み、環境設定について

・学期ごとの「学びの道しるべ・学級のあしあと」の活用による進歩や成長の可視化

→教室に掲示、計画、振り返りの時間をとります。

・峡田小キャリア・パスポートの作成とキャリア・パスポートの計画的な活用（学級活動（３））

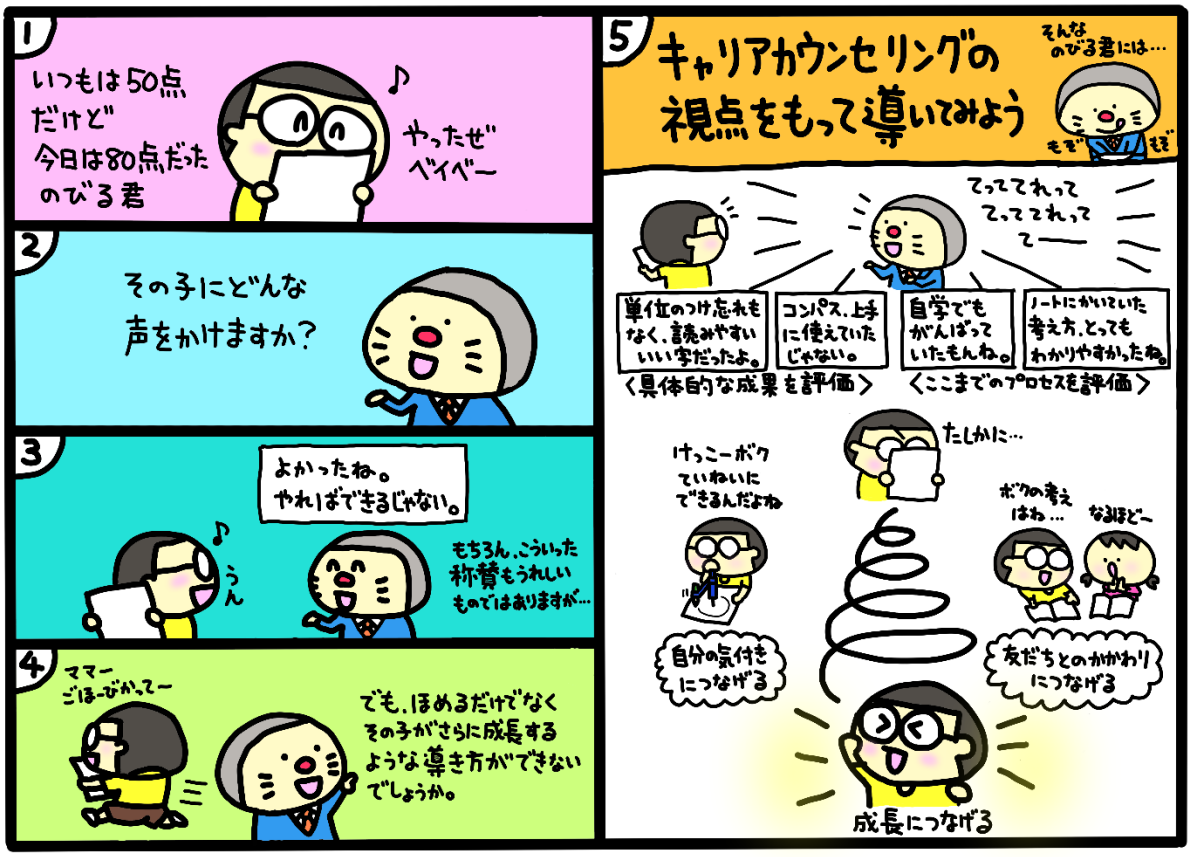
→特別活動年間計画を参照。

・学んだことをふり返り、生活に生かせる「道徳の木」の掲示

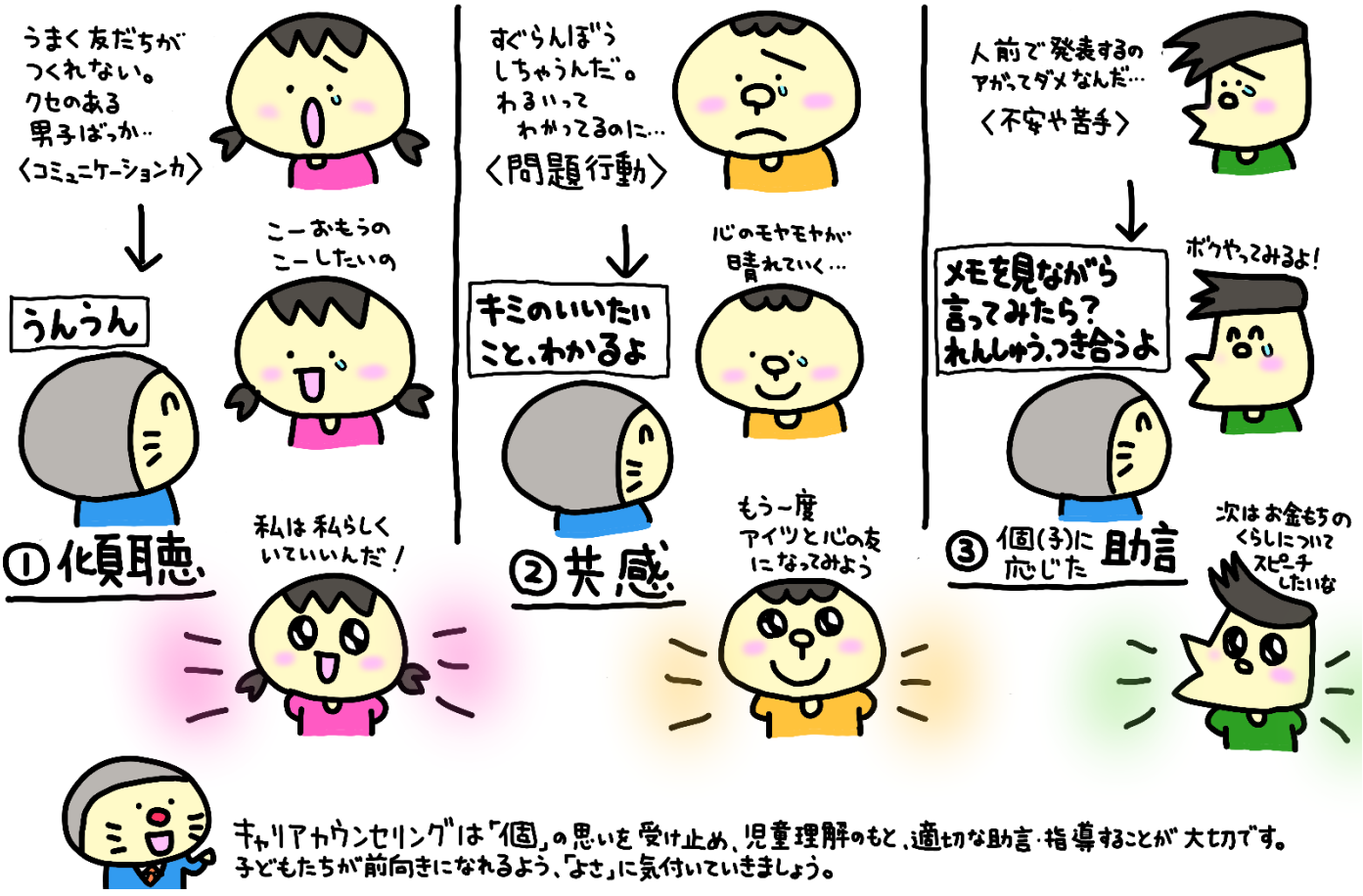
・キャリア・カウンセリングの実践　（運動会、音楽会ノート）

・互いを認め合う交流活動（行事後の異学年交流感想カード）

・子供たちの自主性・主体性を生かした「特別活動」



キャリアカウンセリングで向き合おう



キャリアカウンセリングは「個」の思いを受け止め、児童理解のもと、適切な助言・指導することが大切です。
子どもたちが前向きになれるよう、「よさ」に気付いていきましょう。